

第 103 回全国高等学校野球選手権大会 初出場の東明館高校

「新型コロナウイルス」の感染拡大により昨年度（第 102 回）大会が中止となり、本年度も危惧しながらも無観客での開催が決まり、去る 8 月 8 日（日）、佐賀県高野連の吉富壽泰理事長様が開催を前に、佐賀県関西・中京事務所にご挨拶で来所されました。

生憎の日曜日でしたので、吉原修所長と県人会から八田信男会長、松尾正隆専務理事、中島和秀事務局長が同席して、八田会長から激励の言葉と激励金を贈呈して、ふるさとの代表校の大奮闘ヲ期して激励を致しました。

今年は、県大会で強豪校を打ち勝った東明館高校が初めて甲子園に登場しました。（事務局）



初戦突破ならずも、初の甲子園ではつらつプレイ！

● 昨年の秋と今年の春の県大会を連覇し、夏の甲子園出場をかけた県大会にも勝利し「佐賀県 3 連覇」を果たした、東明館高校が佐賀県代表として初出場しました。

大会予定の 8 月 9 日は台風 9 号の接近に伴い、翌日の 10 日に順延となり、東明館高校は大会初日の第三試合に山梨県代表の日本航空高校と対戦しました。大会当日は朝から台風一過の猛暑日。通年であれば佐賀県から駆けつけた大応援団や関西在住の佐賀県出身者等で埋め尽くされるアルプス席には無観客。内野席に一般応援者を除く高校関係者等だけに入場制限をしておいた開催となりました。

● 初戦突破の期待がかかる東明館高校は試合開始から 5 回までは素晴らしい守備を見せ、ヒット数でも日本航空を上回るなど互角以上のはつらつとした戦いを展開しました。両校 0 対 0 で迎えた 6 回に試合が動きました！東明館高校の攻撃ランナー 1・2 塁で 7 番打者の鋭いセンター前に抜けるヒットに応え 2 塁走者が果敢にホームを突くも間一髪、主審の「アウト！」のコールで先制出来なかったのが悔やまれます。その裏、日本航空はセンター前ヒット、プッシュバンドヒットで走者 1・3 塁と溜まったところで 2 塁盗塁への捕手の送球の一瞬をついて 3 塁走者の思い切ったホームスチールで先制しました。

そして 8 回表の東明館も負けじと大きなライトを後退させるようなきわどい長打を 2 回も放ったが、相手の好守に阻まれ得点することが出来ませんでした。その裏の日本航空は勢いに乗り、レフトオーバー、ライトのフェンス直撃の 2 本の長打に続き、ライト前ヒットと長打力がさく裂した結果 3 点を追加され 4 対 0 の敗退となりましたが、大変引き締まった澁刺（はつらつ）とした緊張感と清々しさを感じさせてくれた試合でした。来年こそは皆さんの熱い応援で初戦突破を目指しましょう。

● 東明館は佐賀県三養基郡基山町にある創設 33 年の中高一貫の私立学校。開校は 1988 年（昭和 63 年）「好学愛知」を校訓とする文芸・武事をともに修める文武両道を理念としている。東明館の校名の由来は、寛政 4 年（1792 年）、当時の対馬藩主宗義功が、朱子学を官学とする幕府の政策にならって、鳥栖に稽古所を開いた。のちの寛政 12 年（1800 年）に「東明館」と称されるに至り、この東明館の理念を現代に継承すべく、1988 年、現在の東明館が開学されたと言われています。（於保記）

